

平成29年度長崎市提案型協働事業 1次審査会 会議録

- ◆ **日時**：平成29年8月31日（木）19：00～20：50
- ◆ **場所**：長崎県勤労福祉会館 4階中会議室
- ◆ **出席者** 審査会会長 山口 純哉（長崎大学経済学部 准教授）
委員 悦 晴美（NPO 法人 DV 防止ながさき 事務局長）
古賀 弥生（活水女子大学 教授）
小鳥居 伸介（長崎外国語大学 教授）
宮田 智史（NPO 法人ミディエイド 理事）

事務局 市民協働推進室

◆ 1次審査会の次第

- 1 MODAL 公開プレゼンテーション
- 2 委員長講評

1 次審査会

◆ 質疑応答

1 MODAL 公開プレゼンテーション

【委員】

プレゼンテーションの始めに、現在トラブルになっていることをどう解決していくかということに対して、一方的に「何々しないでください」という言い方ではなくて、相互に理解しあえるような姿勢がみえたのでよかった。しかし、最後にマナー向上という言葉が出て、企画提案書の中にも、マナーの向上や啓発という言葉がでてきている部分が気になった。マナー向上は、相手のマナーがあまりよくないことでも、受け入れないといけないという感じがあり、本当は避けたいという上から目線が少し見える気がする。ここについては、もう一度どういう認識をしているのか確認したい。

また、お互いに理解する必要があることから、パンフレットは日本語版を含めた4カ国語で制作することになると思うが、日本語版はどこに配ろうとしているのか。他の国のマナーは日本と違うことがあることを伝えないといけないので、どこに配布しようと考えているのか。

【MODAL】

「マナー向上」という表現を簡単に使いがちであるが、マナー向上の対象は、観光客だけではなく、もてなす我々側のマナーの向上も指しており、もっとお互いに理解を深めようという意味である。

例えば、ゴミ袋をとると、最も配布したいのは、苦情が殺到している場所であり、本当はポイ捨てしている現場で言葉に関係なく、実際にこれを使ってくださいというやり取りができればと考えている。

【委員】

ピンポイントで現場に立つということか。

【MODAL】

苦情がある場所を選んで、配布したいと思っている。

【委員】

具体的に話しを詰めていくことが必要だと感じる。

【MODAL】

今後、担当課と協議していきたい。

【委員】

まず、一点だけ確認させていただきたい。アウトラインを制作して募集コンペをするということだが、この募集というのはMODALのスタッフが制作するのではなく、外部にキャラクター制作を募集するという理解でよいか。

【MODAL】

一般の方まで広げると大変なことになるので、まずは自分たちが、これまで親交のある漫画家、イラストレーター、グラフィックデザイナーの方に声をかけようと思っている。

【委員】

それは団体の内部の人間、もしくは団体の関係者という理解でよろしいか。

【MODAL】

長崎は狭いので、声を掛ければ大体届くと思っている。そのあたりはできる限り「知らなかった」という人がいないように注意したいと思っている。

【委員】

予算について、今のところ需用費で計上されているのが57万円ほどで、全体の65.8%程になっている。通常、行政の制作物を作るときは、制作者が好きなように作るのとは違い、やり取りややり直しなどの手間が大変かかってくる中で、人件費はこれで大丈夫なのか。

【MODAL】

予算は本当にぎりぎりに設定している。需用費に関しては印刷会社に大まかな見積もりを作成してもらったので基本的に大きくずれることは無いと思う。また我々は7人という少数で動いているが、今までの活動でいろんな団体との横の繋がりもあるので、この繋がりを上手く利用していけば、何とかこの予算でやれるのではないかと予想している。

【委員】

マンガで親しみやすくするというアイディアは素晴らしいと思った。しかし先ほども述べられたが、マンガの表現で上手くマナー改善につながるだろうか。可愛いキャラクターを使い親しみやすくするというのはわかったが、相互理解に繋がる面というのは今一つわからなかったので、具体的に説明をききたい。

【MODAL】

マンガというのは人の目を惹きやすいという効果があること、また、ある1つの表現にキャラクターを足すことによって表現が柔らかくなるという効果がある。今回は、パンフレットのような読み物の中にもう少しストーリー性を持たせたマンガを作ろうと思っている。できるだけ実例

を原作としてマンガ化したいと考えている。ただ字だけの表現よりマンガ仕立てのものの方が、目にした人の興味が持続するのではないかと思う。

長崎に来て初めて見る印刷物になると思うが、そこで「あれするな、これするな」では見る方の意欲もそがれると思うので、できれば持ち帰ってもらえるような面白そうなマンガとなるように考えていきたい。

【委員】

提案企画書に「事例集としての漫画小冊子化」と書いてあり、この予算は、予算書のパンフレット印刷・製本費の中に入るのはないかと思うが、この程度の予算で大丈夫なのかなという心配がある。また、制作にあたっては、トラブル解消のためのパンフレットというだけではなくて、長崎の良いところを紹介したPRも含めたところが必要であると感じる。そうなったときに、今、見た缶バッジであれば、本当にマンガだというふうに感じるが、これを小さな小冊子の中にどういう形で取り入れていくのか教えていただきたい。

【MODAL】

まず予算だが、私達は今までに「DEPARTURE（デパーチャー）」という、長崎を拠点に活動している漫画家のグループと一緒に制作したことがある。このグループの方は、長崎を拠点に活動しているので、長崎のためなら、ということで実質ほぼ報酬なしでやっていただいた。この点も考慮して、今回かなり低い予算を計上しているが、これでできるという確信はある。

それと、ちょっとしたマンガであるが、こういう小冊子だとマンガがすぐにアイキャッチになると思う。確かに人を引きつけることは難しいと思うが、そこが漫画家の腕の見せ所であり、更に、キャラクターを制作するのは、目立つようなキャラクターであれば、それがアイキャッチになるのではないかと考えているためである。

【委員】

28年度の外国からの観光客が71万人という数字を見せていただいたが、予算は3,000部となっている。これは、モニターのなものとして捉え、そこから更に発展していく構想をもっているのか。

【MODAL】

当然この3,000部であれば、全体の観光客数に比べたら、ごく一部の方にしか目に入ることはないと思うが、これをモデルとしてやってみて、仮に反応が良ければこれをどんどん増刷していただければ私達も本当に良かったと思える。キャラクターについては、このようなキャラクターであるので、著作権というのは全部譲渡ということをあらかじめ漫画家に伝え、描いていただく形にしたいと思っている。

～ 質疑終了 ～

2 委員長講評

いつも複数いると最大公約数的なところをコメントするが、今日は1件ということで、直接MODALさんの話と、長崎市の観光推進の話をしたと思う。

今年もおそらくクルーズ船が300隻くらい入ってくるということで、外国人の方がたくさん来て、日本と外国とで異なること、長崎と外国で異なることにふれるごとに、お互いにストレスが溜まるシーンなども増えてくるのではないかと思う。その中で、やはりこういうことを解決していくことは、すごく大事なことだと思うので、提案内容は非常に良かったと感じる。ただし、これは実は非常に大きな話であり、私は先ほど質疑しなかったもので、ここで意見として言わせていただくと、課題といっても小さいことから大きなことまで様々ある。トイレの話からそれ以外の話まで、とても広範囲であると言える。したがって、今後、一次審査を通して二次に向かって担当課と協議する際には、課題に対してどこを絞り込むかを、じっくり絞り込んで欲しいと思う。トイレの話を中心にするのか、それとも長崎での生活全般を中心にするのかによって、多分マンガの分量なども変わってくるかもしれないので、課題を絞り込んだうえで戦略的にやっていただきたいと感じる。おそらく単年度で全てのことをやるのは、難しいと思うので、どういうふうに広げていくのか、そういうところも一緒に検討してやっていただきたい。

また、行政側で今後の活用方法などを見据え、他の事業のキャラクターなどとの関係性に留意し、お互いによく議論して事業を進めていただくと良いのではないかと思う。

いずれにしても、非常に大事なところに踏み込もうとしているので、ぜひ課題を絞って戦略的にコンセプトを固めつつ、頑張ってください。

最後に、先程、ぎりぎりのところの人件費でという言葉があったが、根拠がある限りは、正しい人件費を積算してもらいたいと思う。普通に、仕事として引き受ける経費は必要だと思うので、最終的に調整があると思うが、しっかり積み上げてほしい。協働事業を行う際に、行政と仕事をすると最後に疲労感だけが残った、というふうになる場合があるが、そんなことがないように気をつけながら議論し調整していただければと思う。

以上で、委員長コメントとしたい。